

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

地球規模の変動下における中東の人間と文化：
多元的価値共創社会をめざして〈基幹研究：現代中
東地域研究〉

メタデータ	言語: ja 出版者: National Museum of Ethnology 公開日: 2022-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西尾, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00009954

地球規模の変動下における中東の人間と文化

—多元的価値共創社会をめざして

西尾 哲夫

人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクトである「現代中東地域研究」(2016~2021年度)の研究テーマは、「地球規模の変動下における中東の人間と文化—多元的価値共創社会をめざして」である。

中東地域研究が、「中東地域」の研究ではなく、中東の「地域研究」であるためには、「独自のタイムスパンと運動法則」を、中東地域固有の問題として矮小化するのではなく、グローバルな(あるいは比較地域研究的な)視点からの人類の近未来に係る問題群の1つとして設定しなおさなければならない。その上で、「イスラーム」という現象を観察可能なものとして実体化するのではなく、中東に暮らす人びとの生活の中の日常実践の一局面と考えることによってのみ、人間的普遍と文化的特殊を同じ位相の中で捉える人間論あるいは文化論が可能である。そのような新たな世界理解の方法を模索し、地球規模変動下における中東の人間と文化に関する個別の研究を通じて、未来の人類社会へのビジョンとして普遍的テーマである「多元的価値共創社会」の可能性を探ることが、「現代中東地域研究」に課せられた最大の課題である。

中東地域研究が、人間文化や人類の普遍性への地平を拓くことで新たな価値を創出できるような研究の現場であるためには、①グローバル化という視点から中東地域を再定位し、②同時に中東地域の視点からグローバル化を再定位する複眼的な分析ベクトルをもちながら、③「個」と社会(共同体)のあり方、つまり中東地域の人びとと世界のつながり方の現代的動態を、フィールド調査によって現地の人びとの視点に立って解明するとともに、人類や人間文化という普遍的な価値をも視野に入れた研究となる必要がある。個々の人間が社会化する過程で起きる動員作用を資源化という観点から捉えることで、とくにその現代的動態に焦点をあてながら、人びとの世界の構築方法を解明する。個人が生きるローカルな生活空間とグローバルな社会空間を接合する問題系を

- ① 文化資源(文化遺産、個人と世界観、宗教とマテリアリティなどの問題群)
- ② 自然資源(生態系と生活空間、環境問題と人間、資源と環境ガバナンスなどの問題群)
- ③ 知的資源(情報環境、コミュニケーションと社会空間、伝統知と教養などの問題群)
- ④ 人的資源(高齢化、障害者、女性・子ども・若者、経済的弱者やマイノリティ、難民などの問題群)

として整理した。そのうえで、自然・社会環境と言語メディア環境にかかる地球規模の変動下において個人がいかに情報を入手し、それを知識としてストックし、さらにそれを資源として活用しているかという観点から、従来の研究では無標の社会的対立項としてのみ扱われてきた民衆や大衆、あるいは地域住民という概念を再構築した。そして、文化的には世俗的中間層、社会経済的には都市部中流層、宗教的には穏健派、政治的には中道派、公共政策的には市民階層としてそれぞれの学問的関心にそって別個に扱われてきた人びとが、個人としていかにグローバル化されたコミュニケーション空間に感応しながら生きているかということに具体的な分析の焦点をあてた。それによって、個人の再社会化ならびにそれらの相互作用の中に多元的価値を包摂/排除するかたちで共創される社会空間の実相を捉え直し、個から世界を構想するための地域研究の新たな方法論を開拓してきた。

これらの活動を通じて各拠点で研究課題について精査し、研究目標に対する問題意識を共有し、2019年度に日本中東学会年次大会を実行するとともに、最終年度までに、全拠点が協力して編著『中東・イスラーム世界への30の扉』を刊行したほか、同書の執筆者と協力しながら共同研究全体のシンポジウムを開催した。また英語による国際的な成果発信に向けた準備を進めてきた。

特徴的な取組・特筆すべき成果

以下では、本プロジェクトにおける特徴的な成果をいくつか記す。

- 2019年度5月に秋田大学で開催された第35回日本中東学会年次大会の実行委員会を務め、現代中東地域研究プロジェクトの国内の研究者コミュニティに対してプレゼンスを示した【民博拠点・秋田大拠点・AA 研拠点】。
- 2019年度の研究集会の成果を、歴史学の世界的なトップジャーナルである *American Historical Review* に寄稿し、Hatsuki AISHIMA et al. 2021 *AHR Review Round Table the Wiley Blackwell History of Islam. American Historical Review* 126(1): 199-213. として刊行した【民博拠点・京大拠点】。
- 企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—『みられる私』より『みる私』」を国立民族学博物館(2019年6月~9月、入館者数34,180名)と横浜ユーラシ

西尾 哲夫 (にしお てつお)

国立民族学博物館グローバル現象研究部教授。専門は言語学、アラブ研究。アラブ遊牧民の言語人類学的研究やアラビアンナイトの比較文明学的研究に従事。著訳書に『ガラン版千一夜物語』（全6巻 岩波書店 2019～2020年）、『ヴェニス商人の異人論—人肉ポンドと他者認識の民族学』（みすず書房 2013年）などがある。



組織体制とロードマップ

ア文化館（2019年10月～12月、入館者数10,380名）で開催するとともに、アジア・アフリカ言語文化研究所に設けられている資料展示室でも企画展「越境する仮面文化—ペルシャ・アラビア湾岸地域の女性たち」（2020年9月～10月）を開催し、共同研究による最新の研究成果を展示という形で社会還元／成果発信を行った【民博拠点・秋田大拠点・AA研拠点】。

- エネルギー資源・開発援助分野における実務者経験の継承また学部向けの日本語出版『現代中東の資源開発と環境配慮—SDGs時代の国家戦略の行方』（縄田浩志編、法律文化社、2021年）、日本・中東の外交史・文化交流史の英語出版『Japan and the Middle East/Islamic World』（Katakura and Katakura、松香堂書店、2022年）を刊行した【秋田大拠点】。

- フランス国立科学研究センター（CNRS）と“Sufi Doctrines and Rituals”（2016年9月）をパリで、“Holy Relics and Religious Commodities in Islam”（2018年1月）を熱海で、“Sufism, Sufi Orders and Saints from Africa to Asia”（2019年3月）をパリで開催し、2020年度、2021年度もオンラインで国際ワークショップを継続的に開催、英語もしくは仏語による出版計画を進めている【上智大拠点・京大拠点】。

- 第5回中東研究世界大会（WOCMES Seville 2018、2018

年7月）に報告パネルを組織し、開催が延期されている第6回に向けても準備を進めている【上智大拠点・京大拠点・民博拠点・AA研拠点】。

- 2018年度にアラビア語教育の向上のため、日本国内の大学等でアラビア語教育の担当者に、フィールドワークに不可欠な話し言葉としてのアラビア語習得メソッドを学ぶためのアラビア語ティーチングワークショップを開催した【民博拠点・AA研拠点】。

- 各拠点で実施してきた公募型の若手研究者による共同研究の成果として、谷憲一・大坪玲子編『嗜好品から見える社会』春風社、2022年【民博拠点】、「[特集] 現代ウラマーの交流と思想伝播—ウズベキスタン・シリア・リビアを事例に」『アジア・アフリカ言語文化研究』第102号、2021年【AA研拠点】、千葉悠志・安田慎編『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク—イスラームのゆくえ』春風社、2021年【京大拠点】、近藤文哉編『中東における旅行・観光の歴史的展開と現代の諸相』（SIAS Working Paper Series 39）、上智大学イスラーム研究センター、2022年【上智大拠点】などが刊行され、若手研究者の研究力向上が見られた。

- 「中東・イスラーム諸国の政治変動」、「シャルダン『ペルシア誌』の図版資料」、「林銃十郎自筆ノート」、「博物館検索データベース」などオンライン・プラットフォームを活用したデータベースの作成を行うとともに、政治変動や博物館情報など経年変化のある内容については適宜アップデートを実施してきた【AA研拠点・民博拠点】。

中東地域研究からグローバル地域研究へ

プロジェクトの研究方法とその成果を総括した論考（西尾2021）で、地球規模の変動下にある人間と文化に関する個別の研究を通じて、人類の普遍的テーマである「多元的価値共創社会」の可能性を探り、地球規模の公共的コミュニケーション空間の激変の中で、多元的価値を包摂／排除する形で共創される社会空間の実相を捉え直す「グローバル地域研究」の必要性を説いた。

引用文献

西尾哲夫 2021 「なぜ日本で中東地域を研究するのか？」西尾哲夫・東長靖編著『中東・イスラーム世界への30の扉』pp.355-365、京都：ミネルヴァ書房。